

子牛下痢症の糞便から分離されたフルオロキノロン
を含む多剤耐性 *Salmonella* Typhimurium: 岡山県岡山
家保家畜病性鑑定課 難波 かおり

フルオロキノロン (FQ) 系抗菌剤は人医療においても重要で、近年耐性菌の増加が危惧。今回、子牛の下痢便から分離された FQ を含む多剤耐性 *Salmonella* Typhimurium (ST) 及び *Providencia rettgeri* 各 1 株の耐性化の機序について検討するため、キノロン耐性決定領域 (QRDR) の変異同定、PCR 法によるプラスミド性キノロン耐性 (PMQR) 遺伝子の検出、プラスミド抽出、プラスミド伝達試験 (ST のみ) を実施。両株で GyrA の QRDR 内変異を認め、保有する PMQR 遺伝子は両株間で異なり、プラスミドサイズも異なっていた。ST のプラスミドは伝達能を有し、キノロン以外の多くの薬剤耐性遺伝子を搭載。両株の FQ 耐性は GyrA の変異に起因し、両株がそれぞれ耐性を獲得したと推察。両株とも PMQR 遺伝子保有を認め、FQ 耐性株の選択が促進された可能性があり、本遺伝子の動向には注意が必要。FQ 耐性 ST は公衆衛生上重要で、出現動向の監視と、分離株の遺伝学的特徴の記録の継続が重要と考える。